
怪盗キッド連載小説

快那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怪盗キッド連載小説

【Nコード】

N4661G

【作者名】

快那

【あらすじ】

世間を騒がせている怪盗キッドそんなキッドの正体は何者かにバレてしまう！※オリキャラです。※第五話までは文章がおかしいです。そのの所は、自分で想像して、読んで下さい。感想を頂けると嬉しいです！

キッドと快斗（前書き）

どうぞ、読んで見て下さい

荒らしだけはやめて下さい

キッドと快斗

「おっはよう快斗！」

「うわっ！きやがったなこの騒音女め。」

「なんだよ青子…なんか用か？」

「何も無いけど、会ったら挨拶ぐらいするのは普通じゃない！？」

「オメーの挨拶、うるせーんだよ！もっと静かにできねーのかよ！」

「青子そんなにうるさくないもん！」

「うるせーよ！」

「なによバ快斗！」

「なんだとアホ子！」

「ふーんだ快斗なんか知ーらない！」

ふうやっと思ったか…それにしても平和だねえ。最近ビックジュエルの情報も無いし：

「ピリリリリ… ピリリリリ…」

ん？メール…寺井ちゃんからだ…

快斗ぼっちゃまへ

新しいビックジュエルの情報が入りましたシャイニング・ムーンというムーン・ストーンでございます。

もしお気に召しましたら今日にでも、ブルーパロットにお越し下さいませ。

寺井より

へえ、いいんじゃないの？
んじゃ、さっそく♪

寺井ちゃんへ

今日の夜8時にそっちに行くよ。
その宝石…シャイニング・ムーンの資料、俺がそっちに行くまでに、
集めといってくれ。

快斗

送信☆

☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆

「快斗く帰ろー!」

なんだよあいつ…

俺なんか知らないっていったくせに…

「わりいな、青子今日はよる所があるから、先に帰っといてくれ」

「うーん…わかった」

「じゃーなー!」

「うん!」

☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆

☆☆☆☆☆

………

「なんだよ紅子」

「あら、やっぱり気づいてたのね。」

「あたりめーだろ!」

「黒羽君、いい事教えてあげるわ。」

「あなたがもし、怪盗キッドなら聞いてちょうだい」………

月下の下に現れし白き罪人に魔の手が襲いかかり、白き罪人の正体が証されん…

「キッドの正体がバレるって…アイツらにか!?!」 「いいえ…多分違うと思うわ…」

「それじゃあ、一体誰にキッドの正体がバレるってゆうんだよ!?!」

「私にもそれは分からない…でも…気をつけて」

「…分かった。わざわざありがとな」

「いいえ」

「じゃあな」

「ええ」

☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆

くそっ 一体誰にオレの正体がバレるっていうんだ!?!?

考えている間にオレはブルーパロットのまえに来ていた…

キッドと快斗（後書き）

よければ感想を書いて下さい
お願いします

キッドと快斗2（前書き）

こんにちは快那です。やっと2話目が書けました
では、ごゆっくりお楽しみ下さい

キッドと快斗2

カラン カラン♪

「ぼっちゃま！ようこそいらっしやいました！」

「……………」

「ぼっちゃま？どうかなさいましたか？」

「…ん？ああ何でもねえよ」

「そうですか…」

「ところで寺井ちゃん資料は？」

「はい。もちろんそろえてあります。」

「わりいな」

「いえいえ…とんでもない。」

「さーて…どうやって宝石をいただくとするかな…」

紅子の言った事も気になるけど、今は宝石をいただく事に集中しねーとな 寺井ちゃんにも心配かけたくねーし…

☆

そ

の夜は、寺井ちゃんと作戦たてるのに熱中して、快斗は、紅子の言った事を完全に忘れていた…

☆

「

ふぁ……………」

「ねっみい…」

昨日遅くまで寺井ちゃんと作戦たてたからな…

「ちよっと、黒羽君！」うわ！

びっくりした〜

「なんだよ紅子…」

「なんなのよ！その気の抜けようは！まさか、昨日言った事忘れちゃったんじゃないでしょうね！？」

あ…………

忘れてました。完全に…

「どうやら凶星のようね」

うぐっ

「私には、関係ないけど気をつける事ね」

☆

おっはよう快斗!

朝の静寂はこのノー天気な声によって崩れ去った。

「なんだよ青子…」

「ねー快斗! 明日一緒にトロピカルランドに行こう!」
はあ?

何でそんな急に…

「何でオレが」

「いいじゃない別にー」…まあ、いいか予告の日はあさってだし。
あーそういうえば今日帰りに予告状ださねーと

「……わかったよ。」

「本当!?! じゃあ、明日朝10時にトロピカルランドの正門らへんで!」

まったく、人の予定も聞かないで…まあ明日から、休みで、一日中暇だから、いいんだけど。

☆

ただいまー!

「お帰りなさい。」

「母さん、オレ明日朝から出かけるから。」 「わかったわ。気をつけて行ってきたね。」

☆

こう…まあ何でもいいか…

はあ… 明日なに着て行

キッドと快斗2（後書き）

こんにちは快那です。このたびは、この小説を読んでいただき誠にありがとうございます。良ければ、感想か評価をお願いします。

キッドと快斗3（前書き）

皆さんこんにちは。快斗です。今回は頑張って、3話も書きました
それではごゆっくり、お楽しみ下さい。

キッドと快斗3

翌日 朝 10時

トロピカルランド、正門付近…

「よお」

「快斗…何やってんのよ！遅いじゃない！」 「え？…でも、オレちゃんと10時ぴったりに…」

「何言ってるのよ！普通なら、待ち合わせの時間より、早く来るでしよう！？」

「へいへい…すみませんでした…」

「まったく…今度から気をつけてよね！」

怒るんだったら、もう少し遅めにこいよ…

☆

「さあー今日のメインイベント！今月できたばかりの「お魚コースター」！！」

「さっさっ魚っ……」

「そーよー快斗の魚嫌いを、今日こそ、こくふくさせるんだから！絶対乗ってもらおうわよ！」

げっ…

まじ？

☆

今日、「お魚コースター」で、

何回

「魚あーっ！！！」と、絶叫しただろうか…

「どーしたの快斗？顔色悪いよ？」

「オメーが「お魚コースター」なんざに乘せるからだろ！」

「えー！楽しかったじゃない！」

「そりゃーオメーは、楽しかっただろうよ…」 「いけない！！も

う5時半じゃない!! そろそろ帰らなきゃ!!」
今度な。」

「ああ また、

「うん!じゃあね、快斗!」
さーて…オレも帰るとするか…

☆

「ただいま

」

「お帰り」

「母さん、今日の晩飯なに?」

「焼き魚」

「げえっ また魚かよ!もう、魚はこりこりだ!」

キッドと快斗3（後書き）

皆さんこんにちは。快斗です。第3話目はどうでしたか？楽しんでいただけましたでしょうか。

第4話目は、出来るだけ今月中に、書きたいと思っています。応援よろしくお願いいたします。

キッドと快斗4（前書き）

こんにちは。快斗です今回は、紅蓮さんの応援に答えて、頑張って第4話を書きました。それでは、どうぞお楽しみ下さい。

キッドと快斗4

「うゝん」

「今何時だ？」……!!もう、こんな時間!

「遅刻するゝゝ!」

ドタドタッ

「母さん!なんで起こしてくれねーんだよ!」 「あら、快斗!まだ行ってなかったの!？」 「今起きたんだよ! 行ってくる!」

「気をつけて行きなさいよ!」

「わかってるよ!」

やっべえゝあと、3分しかねえ!

ブロロロロ… キキッ 「ぼっちゃま!お乗り下さい!」

「寺井ちゃん!？」

「お急ぎ下さい!」

バタンッ

ブロロロ…

☆☆☆☆★☆☆☆☆

「ありがとな!寺井ちゃん!」

「お気をつけて!」

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
ガラガラッ

「ギリギリセーフ!」

「遅かったねー快斗!まさか寝坊したの?」 「うるせー!」

「はーい!皆さん静かに!今日は、皆さんにお話があります!」

…「今日は」じゃなくて「今日も」だろ。

「今日、転校してきた」かみにしその「神西園 藍鳴」あいおさんです!」

「こんにちは。藍鳴と申します。皆さんよろしくお願いいたします。」

「よろしくお願いします。」

キッドと快斗4（後書き）

感想 評価をお願いします！
次回も、楽しみにしていて下さい！

キッドと快斗5（前書き）

こんにちは、快斗です第5話目が書けました！これからも応援よろしくお願いします。

キッドと快斗5

ピリリリリ…

ピリリリリ…

「…っ 誰だよ、こんな時間に電話かけてくるやつは!?!」

「もしもし!?!」

「もしもし? ぼっちゃまですか? 夜遅くに申し訳ありませんが、今新しいビックジュエルの情報を入手しました!」

「本当か!?!」

「はい! 明日、セントマークホテルに1日だけ展示されるようです!」

「わかった! 明日、朝から、準備しに行くよ!」

「え!?! しかし、ぼっちゃま学校は?」

「そんなもんサボるに決まってるだろ!」

「しかし、ぼっちゃま…」

ピッ

快斗は、電話相手に最後までいわずに電話をきった。

「ふああ…ねみい…」

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
ー次の日の朝ー

（警視庁にて）

「中森警部! 今日、セントマークホテルに展示される、「エレメンタル・ライト」を盗むという予告状が!

「なにい!」

「はい! そうなんですが実は、もう一枚予告状が…」

「なんだと! かせっ!」（今日、セントマークホテルに展示される、エレメンタル・ライトをちょうだいしに参上する。）

…

「怪盗レイだとおー!」 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆一方青子は：

「はぁ〜 快斗も、学校サボってるし、せっかく仲良くなった藍鳴ちゃんまで休みだなんて。つまんない：

☆☆☆☆☆☆★☆☆☆☆一方快斗：

「よーし！準備完了！あとは予告の時間まで待つのみ！」☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

キッドと快斗5（後書き）

読者様の、感想評価お待ちしております。

中間の挨拶

こんにちは。快那です。皆様お久しぶりでございます。1ヶ月以上待たせてしまい、誠に申し訳ないと思っています。(^|^;)こんな私ですが応援してくれる方がいて、本当に光栄に思います。これからも、誤字脱字や、文章がおかしい所が、あるかもしれませが、そういう時は、指摘してくださると嬉しいです。

これからは、気合いを入れて、頑張りたいと思っています。

次に、快斗^{キッド}からのお知らせです。POM☆

こんにちは。怪盗キッドでございます。この度は、怪盗キッド連載小説を読んで下さいまして、誠にありがとうございます。

快那同様、私もとても嬉しいので、私も快那の事を手伝えなにか。と考えました所、感想の返事だったら、私にも出来るのでは？と思いい、快那に承諾を得て、次から私が感想の返事をする事になりましたので、どうぞ宜しくお願いいたします。

……だそうです

もし、感想の返事を私にして欲しいと言う心優しい方は、感想の最後に快那希望とでも書いておいて頂ければ、私がお返事します。

これからも私達を宜しくお願いいたします。(＊^|^＊)

すみません字数稼がしてもらっています。
大変、ご迷惑おかけしますがご了承ください。

中間の挨拶（後書き）

字数稼ぎと言う、大変迷惑な行為をしまい誠に申し訳ないと思っています。しかし心優しい皆様なら、許して下さると思っています。
す。（^| ^;）

キッドと快斗6（前書き）

こんにちはー！快那です！

書けましたー第六話！ここ、ちょっと、てまどりましたねー

今回、ちょっと頑張ったので、少しマシになっていると思います。

そして、今、もう一つ小説書いているんですが、そっちの方も読んで下さると、嬉しいです！タイトルは、『初代怪盗キッドがうまれた理由』です！どうぞよろしく、お願いします！

キッドと快斗6

夜10時

セントマークホテル屋上にて

ヒュオオオオオ...

トンッ

怪盗キッドこと黒羽快斗は、軽やかに屋上に降り立った。

「さーて、行きますか！」

その言葉と 共にキッドは、警官に変装し、下へと続く階段を小走りで降りる。

目当ての宝石がある階まで降りるとキッドはそつと宝石が置いてある部屋のドアを開ける。

「うわっ：警察だらけだ：」

キッドは予想以上の警察の数に少しだけ驚いた。

「でも、俺にはこいつがあるよん♪」

さあ！ショータイム！キッドは『こいつ』のスイッチを押した。
フォン：

ビル全体の電気が消える。

警察がパニックになっている間に快斗は持っていたペンライトの光を、頼りに宝石の方へ進む。

そして、宝石を取ろうとした時：.....

何者かに、横取りされてしまった。

快斗は慌てて、その『誰か』が、逃げて行った階段を、かけあがる。

再びセントマークホテル屋上

キッドがやっと屋上についた時、『誰か』は、アドバルーンで今にも、飛び立とうとしていた。

「待てよ」

キッドはそう言い、『誰か』を呼び止めた。

「お前何者だ？」

「あたし？ あたしは怪盗レイよ。」

「怪盗？」

「そう、あなたと一緒に。」

「で？何であの宝石を俺から、横取りしたんだ？」

「…初めて会った人に物盗る理由なんて、言える分けないでしょう？」

「……」

「あなたこそ、何でビクジュエルばかり、盗むの？」

「お前なんかには、教えねえよ。」

「…キッドって、女の子には優しいって聞いたのに、全然優しくないじゃん(@|@)」

「当たり前だろ？敵なんだから。」

「あたし敵にされちゃってるの？(～o～)」

「宝石横取りされたからな。」

「じゃあ返してあげるよ。」

「は？(？|？)」

「なーんてね♪」

「>(|)<」

「じゃあ、あたしそろそろ帰ります！」

「おい！待て！」

「じゃあね♪」

そう、言い残し、怪盗レイはアドバルーンで夜空に飛び立って行った。

「まったく、なんだよあいつ…」
ヒラヒラ…

キッドの前に一枚の紙が落ちてきた。

「ん？」

『来週の水曜日、また、このビルにビクジュエルが展示されるか』

ら、また会うかもね！ 追伸 もちろん、キッドも、来るよね！

？（＾Ｏ＾）』

「…当たり前だろ？」

………

「さて、俺も帰るか…」
ハングライダー バサッ

キッドは白い翼を広げ、夜空へ飛び立った。

キッドと快斗6（後書き）

読んで下さって、ありがとうございました！感想、評価待ってまーす！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4661g/>

怪盗キッド連載小説

2010年10月8日22時22分発行